

少子高齢化による労働人口の減少に伴い外国人労働者は増加の一途を辿っており、外国人労働者の労災事故も増加傾向にあります。

日本人労働者を含む全労働者の労災状況の割合は「墜落・転落」及び「転倒」が最も多いのですが、外国人労働者に限るとその割合は少なくなっています。これは外国人労働者の年齢層が比較的 low、バランス感覚に影響される労災事故が少なくなっているからと考えられます。

一方、外国人労働者で多い労災状況は「はさまれ・巻き込まれ」や「切れ・こすれ」等です。建設関係で就業する技能実習生においては工具の扱いに慣れていない外国人労働者や、そもそも工具を見たこともない外国人労働者がいるため構造や使用方法などの基本的な安全衛生教育（雇入れ時教育、作業内容変更時教育等）が必要となります。

外国人労働者に安全衛生教育を行う上で特に留意しなければならないのが言語の壁です。「令和3年度在留外国人に対する基礎調査報告書」によれば、「永住者」では4割弱が幅広い話題について自由に会話できると回答している一方、「技能実習」では、その割合は3%程度となっています。逆に基本的な挨拶はできる、或いはほとんど日本語で会話できないと回答した「技能実習」及び「定住者」の割合は3割強に及びます。

日本人労働者でさえ事前に準備して安全衛生教育を行うわけですから、日本語能力の低い外国人労働者に対してはより周到に準備して行う必要があります。母国語に翻訳された資料や、視聴覚教材の準備が望ましいところですが、厚生労働省ホームページでは8業種、11言語に対応したマンガで読む安全衛生教育教材を提供しています。その他、外国人労働者向けに注意喚起用のイラスト等も掲載されていますのでこれらの教材を活用するのもよいでしょう。

また、外国人労働者とコミュニケーションをとるために「やさしい日本語」を利用したいところです。「やさしい日本語」のポイントは以下です。

①話す前に内容を整理する ②一文を短く語尾を明瞭にする ③尊敬語や丁寧語を避ける
④接頭語の「お」をつけない ⑤漢語より和語を使う ⑥外来語を多用しない ⑦言葉を言い換える ⑧ジェスチャーや実物提示 ⑨オノマトペを使わない ⑩相手の日本語レベルが高い場合には「やさしい日本語」をやめる

なお、各ポイントにとらわれすぎずに、相手に伝わるようにするにはどうしたらよいか試行錯誤をすることが大切だと考えます。

外国人労働者が日本語を習熟するには時間がかかってしまいます。相手の日本語能力に合わせて、やさしい日本語を利用したり、見てわかるような注意喚起ポスターや視聴覚教材を利用したりすることで外国人の安全衛生教育・管理を行い労災事故がないように努めましょう。

そのために、まずは日本語を母語とする日本人が外国人労働者に歩み寄る必要がある、ということをしつかりと認識しておきましょう。